

## 第三回 諸橋轍次記念 漢字文化理解力検定

### 解答・解説

#### 【問題一】(小計44点)

問1 【読み書き】①=けんしん ②=つかさど ③=依然

④=るうぱい ⑤=処罰 ⑥=ろう ⑦=顧 ⑧=ちゅうちよ  
(各2点)

問2 【篆書】イ (2点)

問3 【部首】エ (2点)

問4 【訓読み】イ (2点)

問5 【吳音の熟語】献立、一献など (2点)

問6 【四字熟語】エ (2点)

問7 【漢字の意味】イ (2点)

問8 【音読み】ロク (2点)

問9 【音訳語】ウ (2点)

問10 【故事成語】ウ (2点)

問11 【難読漢字】イ (2点)

問12 【漢文学】ウ (2点)

問13 【熟語の意味】ア (2点)

問14 【重箱・湯桶読み】イ (2点)

問15 【故事成語】ウ (2点)

■解説 問2 篆書は、丸っこく、全体が同じ幅の線でできているのが特徴。アは甲骨文字、ウは隸書、エは草書で、すべて「鳥」の例。

問3 「威」は「戌」と「女」から成り立つ漢字で、「女」を部首とするのがふつう。

問4 ア「懷」は「ふところ」、イ「承」は「うけたまわ「る」」、ウ「甚」は「はなは「だ」」、エ「侍」は「さむらい」が、最長の訓。

( ) 内は送りがな。

問6 ア「阿諛追従」は、おべんちゃらを言つて付き従うこと。イ「付和雷同」は、自分の意見を持たず、強い主張に賛成すること。ウ「唯々諾々」は、相手の言うことを何でも受け入れるようす。エ「談論風発」は、さまざまな意見が活発に出されること。

問7 「故事」は、昔の出来事。ア「故障」は、何らかの原因で生じた障害。イ「故実」は、昔の事実。ウ「故意」は、わざと。エ「物故」は、死ぬこと。

問9 「合羽」は、「かつば」と読み、ポルトガル語からの外来語。ア「外套」は「がいとう」、イ「羽織」は「はおり」、エ「襁褓」は「どてら」または「おんぱう」と読む。

問11 ア「水馬」は「あめんぼ」、イ「蝦蟇」は「がま」「ひきがえる」、ウ「駒鹿」は「トナカイ」。エ「蝦夷」は「えぞ」「えみし」で、昔、東北や北海道に住んでいた人を指したことば。文脈から、「蝦」が入ることばで、ピヨンと飛ぶものを選べばよい。

問12 ウ「朱子」は、一二世紀の思想家。エ「鬼谷子」は、縦横家の一人。

#### 【問題II】(小計20点)

問13 イ「矛盾」は、二つの理屈のつじつまが合わないこと。ウ「背反」は、お互いに反していること。エ「警句」は、鋭い指摘を含む短いことば。

問14 ア「蜜蜂」は、重箱読み。ウ「革靴」は、二文字とも訓読み。エ「都度」は、二文字とも音読み。

問15 ア「画餅に帰す」は、理論倒れに終わること。イ「株を守る」は、状況の変化にうまく対応できないこと。ウ「無用の用」は、役に立ちそうにもないものが実は役に立つこと。エ「記問の学」は、覚えているだけで役に立たない知識。

■解説 問2 篆書は、丸っこく、全体が同じ幅の線でできているのが特徴。アは甲骨文字、ウは隸書、エは草書で、すべて「鳥」の例。

#### 【問題III】(小計13点)

問1 【国字】かすがい (2点)

問2 【国字】ゆり (2点)

問3 【国字】(1) = 楊 (3点) (2) = 会意 (2点)

問4 【国訓】(1) = エ (2) = つばき (各2点)

■解説 問1 「かすがい」は古くは戸を閉めておくための金具で、この字はしばしば国字とされてきたが、実際には同じ形の字が中国の遼代(十世紀末)に編まれた『竜龜手鏡』という字書に載つており、門の中に水が入っている構成から大水という意味をもつことが音読みの注記によって示唆されている。日本では中世の時代から天災や揺れる・搖するという意味でこの字が使われていた。

問3 平安時代から、「さかき」は神の宿る木、神に捧げる木であるとして「榊」のように書かれてきた。旁は「榊」が本来的な形だが、平安時代から「神」と書かれるのが一般的。(旁を「祀」などと書くこともあった。)「鱸」「蜋」「荻」は中国でできた漢字。

■解説 問2 ア 夏目漱石(一八六七—一九一六)江戸時代、イ菅原道真(八四五—九〇三)平安時代、ウ 大伴旅人(六六五—七三二)奈良時代、エ 諸橋轍次(一八八三—一九八二)明治時代、オ 良寛(一七五六?—一八三一)江戸時代。  
問3 『史記』は司馬遷、『日本外史』は頼山陽の著作。

問4 「つばき」は春の花として奈良時代以前から「椿」と書かれてきた。この字は中国ではある種の靈木やチャンチンという木を表していたので、「つばき」は国訓。音読みはチン、チュン。

## 【問題V】(小計15点)

問1【発音注記】A||ク B||サ C||カ D||ウ (各1点)

問2【音と義の関連】(1) ||字の意味(や品詞)を字音によつて読み分けているから。

(「度」は、"ばかり"や"基準"の意味では「ド・ト」と、"はかる"の意味では「タク」と読むから。) (3点)

(2) ||「付度」「測度」「度量」「度支」「度計」など (2点)

問3【日本漢字音】①||イ ②||ア ③||ウ (各2点)

■解説 問1 A・Bは平声・上声・去声・入声の四つがあるので「四声」とも呼ぶ。C「反切」は漢字二字を用いる注音方法。中国では三世紀から近代に至るまでの主な注音法だった。Eのピンイン(拼音)正式名称「漢語拼音方案」は一九五八年に制定され、一九八二年に国際標準化機構により中国語音を表記する際の国際標準と認められた。

問2 (1) 多義字の意味や品詞は読音によつて読み分けられことがある。その読み分けを「破読(また読破、破音異読などとも)」と呼ぶ。(2) それぞれ「度」は"はかる"の意味で「タク」と読む。

問3 それぞれの代表的な音は以下のとおり。①「文」は吳音モン、漢音ブン。「大」は吳音ダイ、漢音タイ。②「省」は吳音シヨウ、漢音セイ。「權」は吳音ゴン、漢音ゲン。③「行」は吳音ギョウ、漢音コウ、唐音アン。「瓶」は吳音ビヨウ、漢音ヘイ、唐音ピン。

## 【問題V】(小計8点)

問1【諸橋轍次の書・生年】(1) ||以 (2) ||ウ (各2点)

問2【諸橋轍次のエピソード】エ (2点)

問3【大漢和の編纂協力者】イ (2点)

■解説 問1 (2) 数え年では、生まれた時点で一歳とし、以後、元日ごとに年を取る。そのため、数えの年齢から一を引いた数を、生まれた年の西暦に足せば、その年の西暦となる。

問2 博士は、自分は音痴だったと回想している。ちなみに、数学は得意だったとのこと。

問3 読みがよく似ているのがヒント。福島県の小学校教師として古閥裕而に音楽の手ほどきをした後、上京して中等教員の資格を取り、戦後は都立高校などで教えた。ア「福地征太郎」は、後に外務省の官僚に。ウ「飯沼喜八郎」は、群馬県の歌壇を代表する歌人に。エ「橋本武」は、兵庫県の私立灘中学校・高等学校に勤めて「伝説の国語教師」と呼ばれた。